



園だより

平成 30 年 4 月 9 日・10 日

佛教大学附属幼稚園

「みな移り変わる」

園長 田中典彦

「さくらがさいた らんらんらん 嵯峨野ひろっぱ らんらんらん さくらの花の幼稚園 さくらのほほの 子どもたち みんな仲よしよい子ども ののさまの子 よい子ども」

は本幼稚園の園歌です。ご入園、ご進級お芽出でとうございます。私たち園関係者一同、心からお祝い申し上げます。あえて「芽」と表現しました。やはり日本人にとっては新しい年の始まりは桜の花で感じ取られているように思います。Why Japanese people? ではありませんが、桜の開花情報が大きなニュースになっていることに驚く外国人が多いのだそうです。花が咲く当たり前の自然現象が報道の対象になるようなことはこの国ぐらいのものでしょうか。そして花が終われば新芽が出てくるのです。新しいことの始まりなのです。

「諸行無常」が仏教の教えであることは周知のことです。事実をありのままに捉える立場から、すべての存在のあり方の根底に観て取られたものです。すべての現象存在は生滅変化する、つまり移り変わりながらあるというのがその意味であります。

ある数学者から教わったことですが、 $1 + 1 = 2$ というのは真理なのではありません。それはいわば科学的約束に過ぎないのです。したがって簡単に破られます。しかし哲学的な真理は、それを破ることはできません。また真理は発見されるものであって発明されるものではないのです。このようなことからすれば、あらゆる存在のあり方の根底に見出された「諸行無常」は真理であると言えるでしょう。

仏教では現象存在はみな移り変わりながらあることは、われわれが眼前の事実として日常経験していることであることから、特別な証明を必要としない自明のことであるとされています。「諸行無常 是生滅法」(諸行は無常なるものであり、これ生滅の法あるものである)と教えられています。無常という表現から一般的に衰退、つまり悪い方向への変化と理解しがちですが、そうではなくよい方向への形成も意味しているのです。ものが生成されるのも、ものが消滅するのも無常だからであります。蕾が花と開くのも、花が散って実となってゆくのも無常だからなのです。感傷的な側面により鋭敏に心をむける日本人は、ものの移り変わりに無情を感じ取るのです。したがって、文学となり、歌となるのかもしれませんが、桜を取り入れた歌が数多くあることは周知のことです。

移り変わるのは人間もまた同じです。入園された子どもさんの変わりように驚かされるだろうと思います。わずか半日のうちに大きく変わります。「あれ！こんな言葉つかわなかったのに？」「こんなこといつどこで覚えたのかな？」等、毎日が驚きの連続となるでしょう。

そうなのです。居場所が変われば子どもたちは変わります。

ともだちが変われば、子どもは変わります。子どもたちの初めての社会への旅立ちです。どうぞしっかりと子どもさんの移り変わり＝成長を見守っていただきたいと思います。

わたしたちは、ののさま(仏様)の子として健康で、明るく、仲良く育ってくれるようによい家庭のような環境を調えるべく努めてまいります。保護者の皆様には当園の育児方針にご理解をいただきますとともにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

